

ええとこどりvol.2 収録後記

2009年4月16日、「ええとこどりvol.2」のCDリリースが決定いたしました。このCDはちょうど2年前にリリースいたしました、吹奏楽初心者からベテラン愛好家まで堪能していただける!という吹奏楽の「ええとこどり」シリーズの第2作目となります。

この「ええとこどりvol.2」の収録は、前作と同様、当楽団音楽監督木村吉宏氏の指揮のもと、2009年2月9、10日に池田市民文化会館（アゼリアホール）で行われました。

今回収録いたしましたCDの曲目は、フィリップ・スパーク作曲『ウイークエンド・イン・ニューヨーク』、福田洋介作曲『吹奏楽のための「風之舞」』、ジュゼッペ・ヴェルディ作曲（木村吉宏編曲）『歌劇「アイーダ」より凱旋行進曲とバレエの音楽』などをはじめとする、全8曲です。

この曲目の中でヴェルディ作曲の『歌劇「アイーダ」より凱旋行進曲』という曲は、サッカーの応援歌として使用されていたので、どこかで聴いたことがある、

という方がほとんどだと思います。この曲はトランペットが大活躍する曲なのですが、演奏効果をあげるために特別に「アイーダ・トランペット」と呼ばれる管長約1.2mの長大なトランペットを使用して演奏されます。今回の収録時にも、6本のアイーダ・トランペッ



アイーダ・トランペット登場!

トを使用し、舞台花道の左右二手に分かれて演奏いたしました。この曲を演奏する時以外でアイーダ・トランペットを使用することはないので、当楽団のトランペット奏者は試行錯誤しながらも、とても楽しそうに演奏していました。

一般的なトランペットとは形はもちろん、音色も違うので、他のCDではあまり聴くことの出来ない音を聴くことが出来るのではないか、と私もCDの仕上がりを楽しみにしています。他にも、中国の伝記小説「西遊記」のお話を元に作られた曲や、ジャズ・ポップスを取り入れた楽しく親しみやすい曲など、いくつかのジャンルの吹奏楽作品を収録し、「ええとこどり」というネーミングにふさわしい盛りだくさんのCDに仕上がっていますので、ご期待ください！

最後になりましたが、このCD収録にあたり、ディレクターの森田氏、レコード会社ワコーレコードの西村氏をはじめ、たくさんの方々のご協力をいただき、無事にレコーディングを終えることが出来ましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

小坂智美



レコーディングの模様



ディレクタールームでの打ち合わせ
左から、ワコーレコードの西村氏、
音楽監督の木村氏、ディレクターの森田氏

オオサカン金管・打楽器セクションによる 春プラス'09 コンサートレポート

4月5日(日)豊中市立ローズ文化ホールにて「春プラス'09」を開催致しました。これはオオサカンの金管・打楽器セクションの有志で主催した演奏会で、アンサンブルと大合奏の2部構成でした。

第1部は、ロサンゼルスオリンピックのテーマ曲『オリンピック・ファンファーレ』で幕を開けました。迫力満点の、オオサカンの金管サウンドを存分に發揮出来的な演奏だったと思います。

アンサンブルは、金管五重奏、ホルン四重奏、金管八重奏、打楽器アンサンブルを演奏しました。特にお客様に人気があったのはホルン四重奏の『クレージー・ホルンズ』でした。この曲は、ブルース・ラテンなどの特徴的なリズムを使用した表情豊かな曲です。また楽譜中に可能な範囲内で十分に速くと記載されているところもあり、聴いていてとても楽しかったです。また、終盤では1番ホルンに高音のパッセージがありましたが、当団世古宗氏が華麗に決めてくれました。

金管八重奏は『金管アンサンブルのための「テルプシコーレ舞曲集」』を演奏しました。この曲は当団トロンボーン奏者の竹本裕一氏の編曲です。以前にもいろいろな団体で演奏されたようで、その度に手を加え、こだわりつくした作品のようです。

また、出演人数が8人に制限されているアンサンブルコンテストでも演奏出来るよう、打楽器を金管奏者が代わる代わる受け持つという斬新な編曲でした。私も人生初めてのグロックンパートを担当しました。



金管楽器奏者による
打楽器演奏もお披露目された八重奏

「ソ」の音を1つたたきだけでも緊張し、どうなることかと思いましたが何とか無事に終えました。お客様にはこの見慣れない管楽器奏者の打楽器の演奏も楽しかったようでした。

そして、大合奏の1曲目は『「レガシー」～ヴィンセント・チコヴィッツ（1927-2007）の生涯を称えて～』を演奏しました。この曲は、メンバーがミッドウエスト・バンドクリニック（アメリカシカゴにて）に参加した時、作曲者のM.キャンプハウス氏から直々に「オオサカンに演奏してほしい」と楽譜を提供していただいた曲です。とても雄大で素晴らしい曲だったので、また演奏する機会があればと思います。

最後の曲は、『「オセロ」～金管楽器と打楽器群のための5楽章の交響的描写～』でした。この曲はシェークスピアの悲劇を描写した曲で、楽章ごとにその情景が鮮明に表現されている素晴らしい作品です。リハーサルを重ねる毎に曲の深部にどんどん進んでいくような深い曲で、本番では一番良い演奏が出来たと思います。

そして、アンコールに『ロンドンデリーの歌』『アルセナール』を演奏し、「春プラス'09」を終えました。

今回この演奏会を開催し、金管楽器の響きの素晴らしさを改めて感じ、お客様とこのひと時を共有出来た事が何よりも嬉しかったです。またこのような機会を作りたいと思います。ご来場いただきました皆様、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。 高木智沙



金管・打楽器奏者全員による大合奏

イベントレポート

大好きって、すごい♪

オオサカン ウィンドバンド・フェスティバル'09

3月14日（土）、守口市民会館さつきホール（通称モリカン）にて、実力派指導者の加養浩幸氏を指揮に、人気作曲家の鈴木英史氏を解説にお迎えし、オオサカン・ウィンドバンド・フェスティバル'09を開催いたしました。

このイベントは今年から趣向を変え、小編成のバンドにも大編成のバンドにも、また指導者の方も学生の方も、吹奏楽が大好きな方みんなが楽しめるイベントにしよう!と、コンサートはもちろん、公開リハーサルや、オオサカンの楽員による講座、交流ランチタイム、楽器別クリニック、世界初演に参加企画など、盛りだくさんの内容でお届けいたしました。

午前中の公開リハーサルから、客席には多くの学生さんや指導者の方々にご来場いただきました。リハーサルでは、オオサカンの楽員のリハーサルはもちろん、客席の方にもわかりやすくリハーサルのポイントを加養・鈴木両氏に解説していただきながら進められました。

お昼休みには、ご来場いただいた方々とオオサカンの楽員との交流ランチタイム！楽員を間近に見てドキドキしている学生さんや、お気に入りの楽員の近くでごはんが食べることが出来て幸せそうな表情の学生さん等、終始和やかな雰囲気でした。普段はステージと客席とで距離があるのですが、このようにみなと間近でお昼ごはんを食べ、色々と会話することが出来て、我々もとても楽しく過ごしました。

午後からのコンサートでは、「小編成レパートリー・コンサート」と題し、30人以下の編成でも充分演奏効果の高い楽曲を中心に4曲演奏しました。中でも注目を集めたのは13人から演奏が可能な『ブローニュの森』（樽屋雅徳作曲）！各パート1人ずつ、計13人によって演奏されましたが、演奏効果も高く魅力的な楽曲でした。

そして課題曲コンサートでは、加養氏の指揮による実演、そして鈴木氏の解説も交え進められてきました。途中、ホールのお隣にある淀川工科高校の丸谷明夫先生がステージに飛び入りする楽しいサプライズもあり、会場全体が笑いと和やかな雰囲気に包まれました。客席の学生さんたちは各自持参してきた楽譜を広げ、当団の演奏を一生懸命聴いてくれ



西野 有香

NISHINO, Yuka

- ★パート:トランペット
- ★使用楽器:Bach:180ML 37
- ★使用マウスピース:Bach:5B(クラシックもJAZZもこのマウスピースを使用しています。)
- ★星座:きときとの魚
(きときと…富山弁で新鮮な意味。)
- ★血液型:B+型
- ★趣味:①コアリズム ②芸人サン関連(最近は【モスクグリーン】さんがイチ押しです!!)
- ★一番好きな吹奏楽の曲
ダンシング・メガヒット(初心に戻れます。)



真剣な学生さんの姿に、講師も熱が入る！

ていました。

オオサカンの楽員による公開講座では、「呼吸が演奏の要!」「知ろう!マウスピースの基礎知識」など全6種類の幅広いテーマを取り上げ、満員御礼の各会場のあちこちから「すごく楽しくて勉強になりました。全部回りきれないのが残念!」という声が聞こえました。私自身も実際にいくつかの講座を見てまわりましたが、各会場での学生さんたちの、講座を聞く真面目な目線がとても熱く、少しでも何かを吸収して帰ろうという姿勢が多く見られました。

加養＆鈴木氏による指導者のための特別公開講座、さらにブレーン（株）さんに出店をしていただいた楽譜展示ブースにも、たくさんの指導者の方にご来場いただき、吹奏樂に対する指導者の方の関心の高さと情熱を、私たちオオサカンの楽員も改めて実感させていただきました。

そして今回のイベントの特別企画、『風之舞』で有名な作曲家福田洋介氏が今回のために書き下ろしてくださった新作『フィルハーモニック・ステップス』の世界初演！この曲は、ステージの演奏のみではなく、客席の方々にも手拍子などで演奏に参加していただける作品です。客席の方々と世界初演を行う、という前代未聞のイベントに最初は上手いくかどうか不安もあったのですが、いざ演奏してみると、本当に素晴らしい演奏になりました！ステージの上から客席を見ると、お客様みんなの笑顔、笑顔、笑顔。会場のみんなが楽しめる、素敵な世界初演を行うことができました。

各楽器別のワンポイントアドバイスでは、楽員の前に中学生から社会人まで、様々な年齢層の方の長い列が、終了時間まで絶えることがありませんでした。

今回のいろいろなイベントを通じ、ウィンドバンド・フェスティバルのテーマ「大好きって、すごい♪」を実感しながら、盛りだくさんで充実の一日を終えることが出来ました。今回ご来場いただいたお客様はもちろん、お世話になった全ての方に心より御礼申し上げるとともに、これからも「吹奏樂の発展のために、できることはなんでもしようと決意を新たにさせていただいた素敵なウィンドバンド・フェスティバルでした。

谷井泰

※今期号は連載の「私の思い出の吹奏楽曲」をお休みします。

♪ 楽 員 紹 介 ♪

- ★いつから始めたか、またそのきっかけは？
- 小学3年生の頃友達に誘われてCLを吹こうとしたが、3日間通い続けても音がでず、諦め掛けていた時にHr.に出会い、一発で音が出たのが始まり。小学生なのでマーチが多く、いつもHr.は「ンパンパンパッパ」。Tp.の友達が音がなくて出ないといつも泣いていたので、私だったら絶対にそんなオイシイメロディ吹いてやるのに。と共に思っていた。(根性悪い笑)中学生になり、すぐにトランペットに変更しました。次は私が泣く番でした(笑)
- ★ひとこと
- 死ぬまでトランペットと生きて行きます。皆様、歯はもちろん、歯茎を大切に！